

For the best future



株主の皆様へ

第101期 Thank you 便り

2009年4月1日から2010年3月31日まで

101

THIRD PARTY

NETWORK

CONSULTING

ENGINEERING

 山九株式会社

証券コード：9065

<http://www.sankyu.co.jp>

！ 山九グループ最大級物流センターが業務開始

2010年1月、山九グループ最大規模の首都圏物流センターが業務を開始しました。この物流センターは京浜港や羽田空港等、国内外との主要物流拠点に近接しており、総保管面積26,000坪、天井高5m以上、さらに高い生産性を実現できる4階建てランプウェイ構造を採用しています。セキュリティや環境面にも十分に配慮し、首都圏での製品・貨物の保管に、また国内・外への効率的・高品質の3PL業務の拠点として、幅広いお客様に活用いただけます。

山九グループでは、この物流センターを核とした国際3PL業務(P7～)の拡大を進めてまいります。



●山九首都圏
物流センター

！ 新日鐵グループ「第5回技能トライアスロン大会」で技術力をアピール



2009年11月、大分県で開催された第5回大会において、行野さん(大分支店)が総合準優勝、鉄鋼部門で1位を獲得しました。昨年の高尾さん(八幡支店)につづきお客様の安定操業に貢献できる山九グループの保有技能が認められる結果となりました。

●行野さん

CONTENTS

- P 1 ニュースフラッシュ
- P 2 株主の皆様へ
- P 3 よくあるご質問
- P 5 山九グループ長期ビジョン
- P 7 クローズアップ
- P11 連結財務情報
- P13 単体財務情報
- P14 会社情報

将来情報に関するご注意

本誌の掲載内容のうち、歴史的事実でないものは将来に関する見通し及び計画に基づいた将来予測です。これらの将来予測にはリスクや不確定要素が含まれており、実際の成果や業績と大きく異なる場合がありますのでご注意ください。

**お客様のグローバルなアウトソーシングニーズに
総合力と機動力でお応えできる体制を整備し、
お客様事業の改革に貢献してまいります。**



代表取締役社長

中村公一

株主の皆様には、平素より格別のご支援とご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

ここに山九グループの第101期の経営成績をご報告するとともに、今後の方向性についてご説明申し上げます。

当期の経営環境におきましては、日本経済は依然として雇用情勢や所得環境など厳しい状況が続いておりますが、年度後半からは内外の経済対策などの効果により、景気は緩やかな回復基調を示しております。

当社グループの主要なおお客様である鉄鋼、石油・石化関連各社においては、第1四半期は

生産量が減少しましたが、第2四半期以降、海外需要の増加などにより回復傾向を見せております。

当社グループにおきましても年度後半にかけて作業量は徐々に回復しており、年度前半の減産による影響についても全社的にコスト削減に取り組んだ結果、稼働率の低下を最小限に抑えることができました。しかしながら前年水準までの回復には至らず、当期連結売上高は前期と比べ7.0%の減収、これに応じて営業利益、当期純利益についても減益となりました。

今期につきましても、回復基調にあるものの厳しい環境は続くものと予想されますが、お客様からの効率化・合理化要請に対しては、迅速かつ的確に応えるべく、物流・機工事業での専門性を生かした事業展開を進め、お客様のグローバル展開を総合力と機動力で支える体制の整備・施策をさらに推進してまいります。

株主の皆様には、今後とも引き続き変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2010年6月

山九グループをより深く理解していただくために 株主の皆様からの よくある質問にお答えいたします。



当期の業績・経営環境について

当期事業環境は、お客様の大幅減産の影響も年度後半にかけては和らぎましたが、その回復は緩やかであり、全体を通じて取扱量は低調に推移しました。当社グループでは、原価率低減を目標としたコスト削減や効率化をはじめ、グローバルでのネットワーク拠点拡充など事業拡大に向けた積極的な投資を進めてまいりました。

その結果、2010年3月期の連結売上高は前期比7.0%減の3,873億64百万円、経常利益は前期比17.6%減の201億19百万円、当期純利益は前期比5.5%減の117億88百万円となりました。



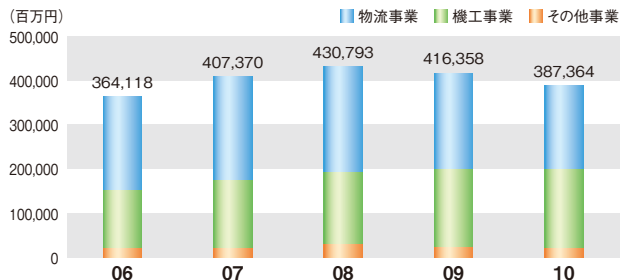
事業セグメント別の状況について

物流事業では、輸出入貨物・国内貨物の取扱量減少や大型海外プロジェクト輸送案件の減少など厳しい状況が続き、また、お客様からの物流コスト削減要請も依然として根強く、全体的な作業量も低下したことにより減収となりました。

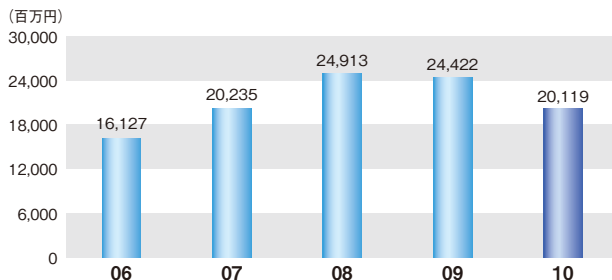
機工事業では、大型設備工事の完成や工事進行基準の適用もあり設備工事は大幅に増加しましたが、保全作業は主要なお客様のSDM（大型定期修理工事）の減少に加え、予算削減などによる常例の保全作業も減少した結果、微増収となりました。

その他事業は、システム開発案件の採算悪化や不採算工事により収益性が低下し、減収となりました。

部門別売上高



経常利益





中・長期的成長に向けた取り組み

当社グループでは、近年めまぐるしく変化する経営環境に対応すべく、競争力の強化と企業価値の向上に向けて経営施策を強力に推進しております。

コスト構造については外注費や資材費の削減など原価率の低減と要員流動化による労務費の削減を進め、生産性の向上を目指します。さらに、新興国を中心とした物流拠点の整備や高品質かつコスト効果が期待できる3PM（一括メンテナンス）体制を構築し、事業拡大に取り組んでまいります。また、このような施策をより効率的に推進するためグループ事業運営体制の再編をするとともに、財務体質の強化を進め、安定収益を確保できる企業体質を構築してまいります。

また当社グループでは、変化の激しい環境の中で当社グループ全体の潜在力が最大限に発揮されることを目的とした「山九グループ長期ビジョン」を策定し、軸のぶれない事業展開を実現するための羅針盤として活用してまいります。



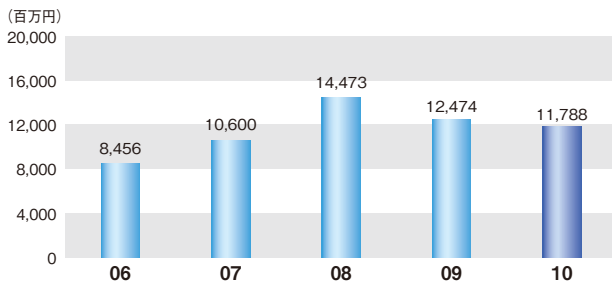
今期の見通しについて

今期は新興国による需要拡大が期待されますが、足元の国内経済はいまだ混沌としており、景気回復は緩やかに推移すると予想しております。また当社グループの主要なお客様においては、コスト削減施策・合理化施策ニーズが想定されるなど、当社グループの経営環境は引き続き厳しいものと考えられます。

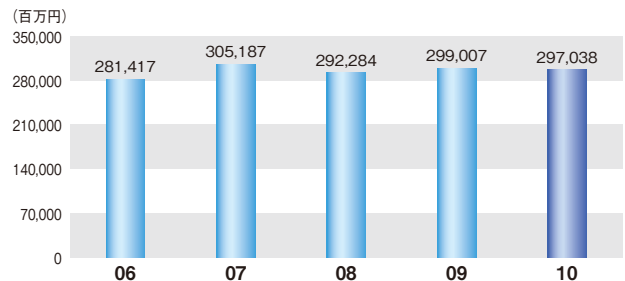
当社グループは「将来にわたってお客様から選ばれる企業」であり続けるため、お客様からの効率化・合理化要請に対しては、引き続き迅速かつ的確に応えてまいります。そのための施策として、国内はもとより、中国・東南アジアを中心にネットワーク拠点を拡充するとともに、グローバルな“人財”の育成・確保に努めてまいります。

以上のような施策を鑑み、2011年3月期の連結売上高は3,800億円、経常利益は192億円、当期純利益は102億円を予想しております。

当期純利益



総資産



山九グループ長期ビジョン

For the best future



2018年10月、山九は創業100年という大きな節目を迎えます。
新たな100年に向けて更なる発展を目指し、
「山九グループ長期ビジョン」を策定しました。

■ 山九グループ 長期ビジョン

私たちの未来を見据えたときに必要不可欠なのは、国内外に広がる山九グループ全社、全社員の総力の結集です。「山九グループ長期ビジョン」は、私たちの進むべき道を指し示す「羅針盤」であり、山九グループ全社員が同じ思いをもってその実現に向け取り組んでいきます。

Mission
(存在価値)

Vision
(将来像)

社訓三原則

- 公言実行
- 自問自答
- 感謝

企業理念

長期ビジョン

経営理念

経営目標

行動規範

目指すべき方向性

基本方針

事業の方向性

企業理念

経営理念

人を大切にすることを基本理念とし、お客様にとってなくてはならない存在としての山九を築きます。
そして、社業の発展を通じて社員の福祉向上並びに社会の発展に貢献します。

経営目標

- 良き企業市民として、国際社会の発展に貢献します。
- 産業進化に即した、最高のサービスを提供します。
- 現場の知恵・汗を大切に、社員の可能性を育みます。

行動規範

- ⊕ 安全を全てにおいて優先します。
- ⊕ コンプライアンスに基づき行動します。
- ⊕ 文化、宗教、価値観を正しく認識しグローバルに行動します。
- ⊕ 地球環境保護に積極的に取り組みます。
- ⊕ 社会に感動を与える仕事をします。
- ⊕ 自分の仕事に誇りと責任を持ちます。
- ⊕ 互いを尊重し共に発展します。
- ⊕ 魅力ある人が育つ企業を目指します。
- ⊕ 現場の汗を結集し強い企業であり続けます。



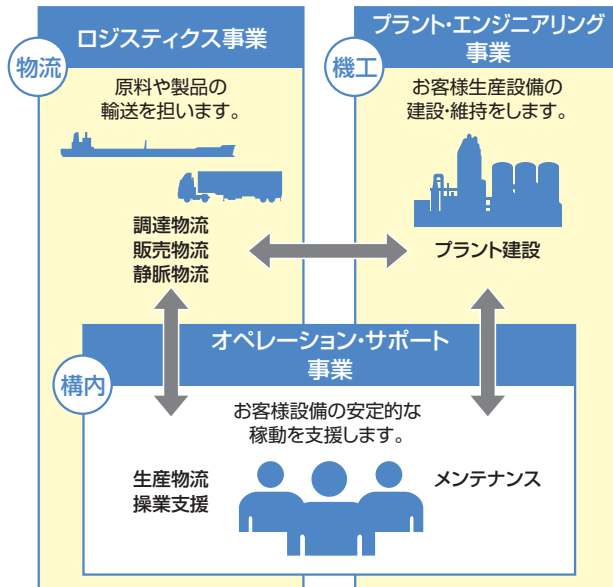
長期ビジョン

■ 目指すべき方向性

「ロジスティクス」「プラント・エンジニアリング」そして、「オペレーション・サポート」を軸として自らがグローバル化し、お客様の国際化に貢献するソリューション企業*を目指す。

※技術・技能、システムを複合的に組合せ、現場力と知恵を用いてお客様の改革に貢献する企業

- 1 従来の「物流」と「機工」に「構内」を加えた3つを主力事業とし、併せて事業名称をわかり易く改称しました。
- 2 グローバル化を更に推進します。
- 3 ソリューション企業を目指します。



「お客様をトータルにサポートするユニークなサービス」

これらを一貫して、お客様から請け負うことができる
私たち山九グループが最も得意とする、ユニークなサービスです。

■ 基本方針

- 1 強みを活かした事業を展開する。
- 2 現場力の強化で高品質なサービスを提供し、自ら進化するプロ集団を目指す。
- 3 技術力を高めることで、今までにない新しいサービスを創造する。

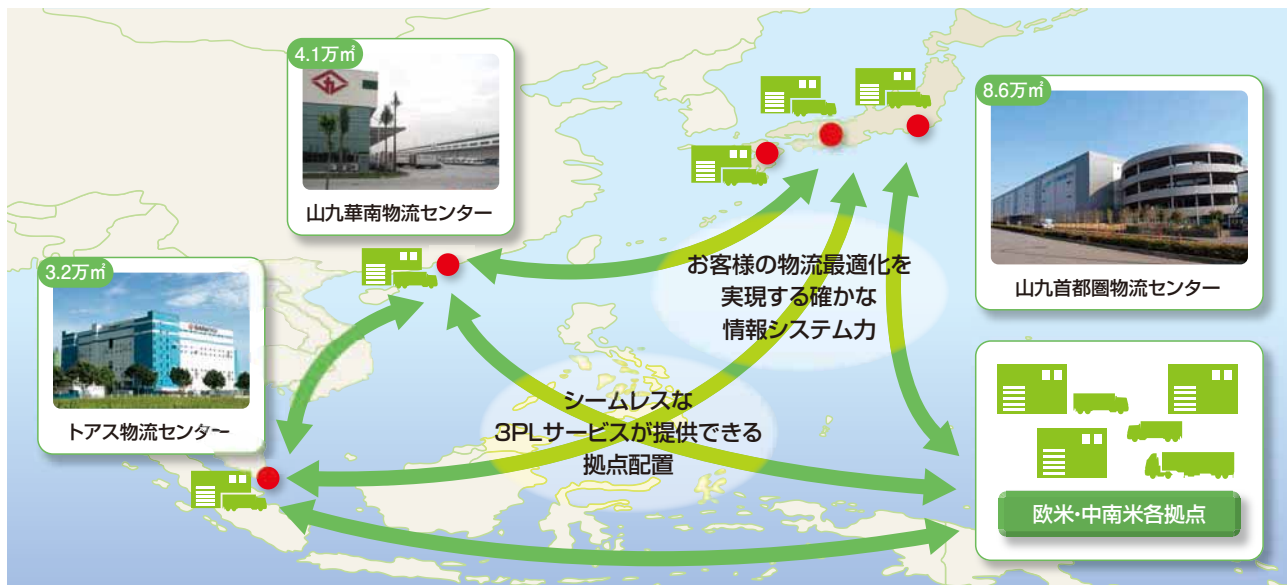


■ 事業の方向性

- 1 主力事業は、ロジスティクスとプラント・エンジニアリング、オペレーション・サポートの3事業とする。
- 2 3つの事業を展開し安定成長を実現する。
- 3 「プラント・エンジニアリングから切り込み、オペレーション・サポート、ロジスティクスに繋げる」基本的なビジネスモデルは海外を中心に積極展開する。
- 4 産業界のアウトソーシングニーズの拡大には、お客様の業務改革に貢献するスタンスで対応する。
- 5 シナジーの発揮
3つの事業を併せ持つ強みを活かし、お客様の企業戦略をトータルにサポートします。
- 6 新たな市場セグメントの拡大、開拓
 - 深耕拡大業界：環境関連、エネルギー分野
 - 新規開拓業界：医薬品、食料関連分野

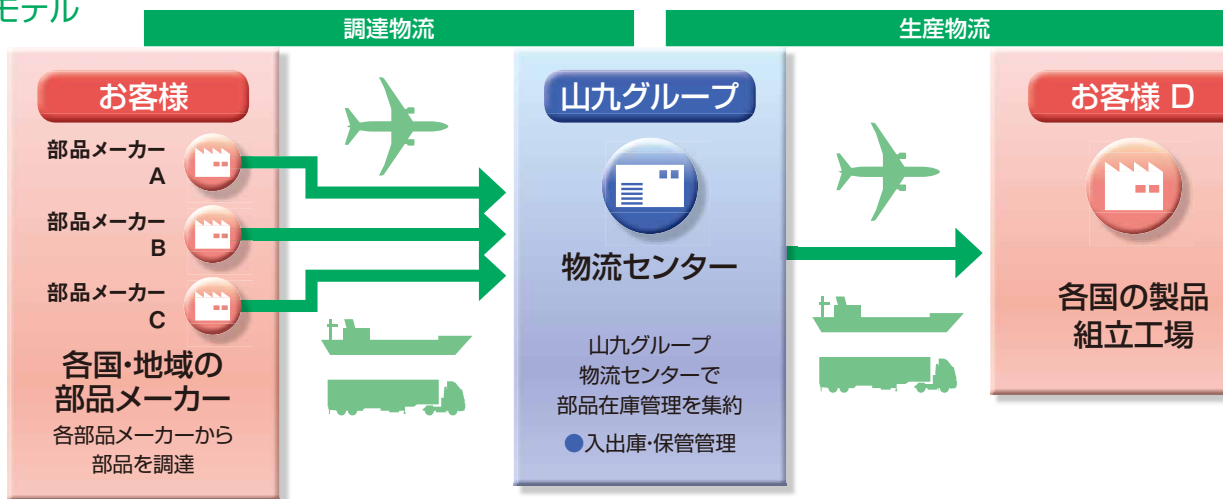
山九の国際3PL(サードパーティ・ロジスティクス)サービス

日本・中国・東南アジアを中心に欧米・中南米でもシームレスかつ高品質な3PLサービスを提供しています。



国際3PLの標準モデル

物流情報システム



■ 山九が提供する国際3PLサービス

当社は、3PLという言葉が無かった昭和の時代からお客様の物流最適化に貢献してきました。その長年培った運営ノウハウを活用し、お客様の戦略やニーズに合致した最適なシステム（仕組）を創り上げ、効果的なソリューション

をご提案しています。さらにそのシステムを最大限に生かせる最適な物流ネットワーク拠点を世界各地に配置し、全拠点で高いレベルの均一なサービスを提供しています。

国際3PLサービスのメリット

● お客様のコア業務への集中

物流に関わる様々なコストが削減され、経営資源を有効活用することが可能です。

● 情報システムによる在庫管理

国内外の在庫情報をトータルで把握でき、生産・販売計画の精度が向上します。

● 物流業務の全てをアウトソース

お客様の「物流部門」としての機能を果たし、共に成長を目指します。

● お客様に最適な物流を実現

世界をカバーする物流拠点ネットワークと情報システムにより、スピーディで確実な物流をご提供します。

● 豊富な実績とノウハウ

物流の専門家として、常に効率化・最適化を考え、継続して最善策をご提案します。

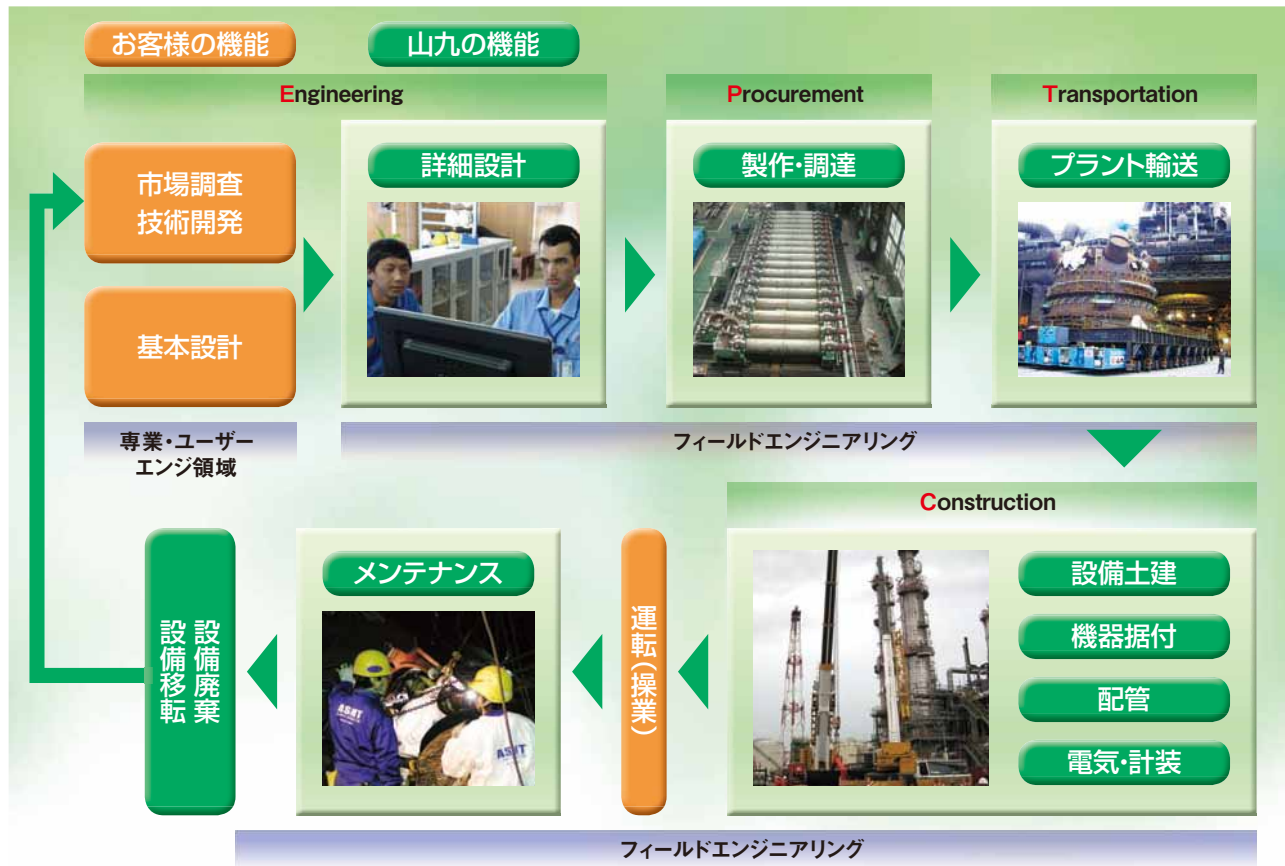
による一括管理

製品物流



プラント・エンジニアリングのグローバル展開

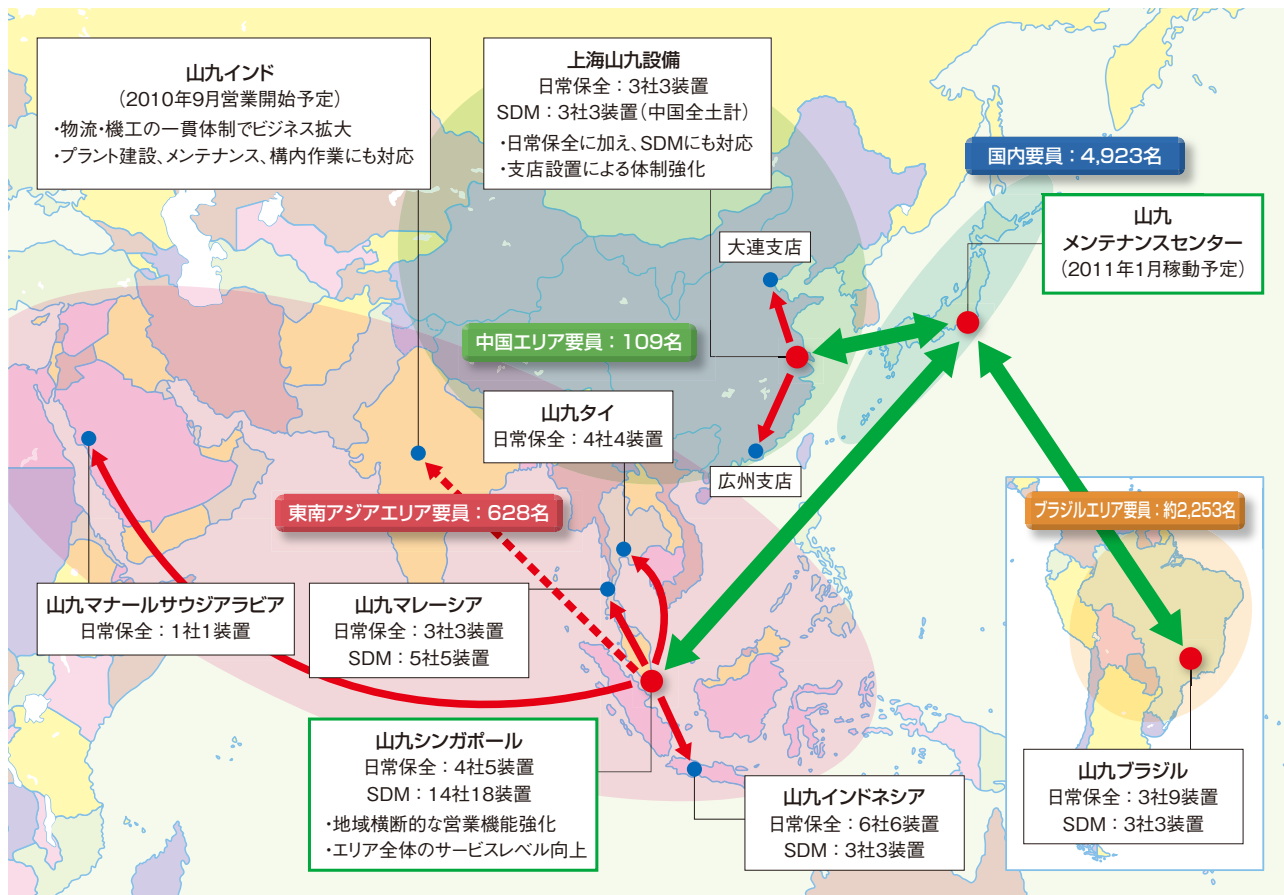
お客様のグローバル展開を総合力と機動力で支えるプラント・エンジニアリング



当社は、お客様プラントにおけるエンジニアリング・サイクルの大部分 (EPTC+メンテナンス) をトータルに管理することで、お客様のグローバル展開を強力にサポートしています。近年、中国を中心としたアジアマーケットが拡大、主要なお客様のグローバル展開が加速しており、アジアに確固たるネットワークを保有する当社にとっては、ビジネス

拡大の絶好のチャンスと捉えています。グループ全体でも海外要員は全体の4割を超えており、海外現地法人との連携で国内と同レベルの作業品質を実現しています。今後もお客様のグローバル展開を柔軟かつ確実に支える体制を更に発展させてまいります。

■ グローバル展開の状況(日常保全・SDM実績)



■ 人材育成 (2010年から2012年にかけての目標値)

どの国でも日本と同じ品質の作業を提供します。

● 海外対応要員の拡充

日本人社員の海外勤務経験拡大
11%⇒27%(3ヵ年)約2.5倍

● 幹部・現場技術・技能者教育

現地法人社員の日本研修拡大
37名⇒72名(3ヵ年)約2倍



連結財務情報

連結貸借対照表(要約)

当期：2010年3月31日
前期：2009年3月31日
(単位：百万円)

科目	当期	前期
●資産の部		
流動資産	129,870	143,224
現金及び預金	16,933	20,049
受取手形及び売掛金	95,500	87,365
その他	17,436	35,808
固定資産	167,167	155,783
有形固定資産	119,078	109,790
無形固定資産	5,329	4,617
投資その他の資産	42,759	41,375
① 資産合計	297,038	299,007
●負債の部		
流動負債	107,173	121,411
支払手形及び買掛金	48,029	54,319
短期借入金	32,015	34,560
その他	27,128	32,531
固定負債	86,757	88,020
長期借入金	33,338	32,248
退職給付引当金	39,350	40,810
その他	14,066	14,961
② 負債合計	193,930	209,431
●純資産の部		
株主資本	103,624	94,629
資本金	28,619	28,619
資本剰余金	11,943	11,943
利益剰余金	68,723	59,702
自己株式	△ 5,662	△ 5,636
評価・換算差額等	△ 2,474	△ 6,786
少数株主持分	1,957	1,731
③ 純資産合計	103,107	89,575
負債純資産合計	297,038	299,007

連結損益計算書(要約)

当期：2009年4月1日～2010年3月31日
前期：2008年4月1日～2009年3月31日
(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	387,364	416,358
売上原価	354,437	378,951
売上総利益	32,927	37,407
販売費及び一般管理費	11,198	12,061
営業利益	21,728	25,346
営業外収益	1,591	2,068
営業外費用	3,200	2,992
経常利益	20,119	24,422
特別利益	340	—
特別損失	—	2,157
税金等調整前当期純利益	20,460	22,264
法人税等	8,551	9,571
少数株主利益	120	218
当期純利益	11,788	12,474

① 資産合計の減少

京浜地区に建設した首都圏物流センターの完成による有形固定資産の増加や時価回復による投資有価証券が増加しましたが、工事進行基準の適用により未成作業支出金が減少したことにより、前期末比19億69百万円減少し、2,970億38百万円となりました。

② 負債合計の減少

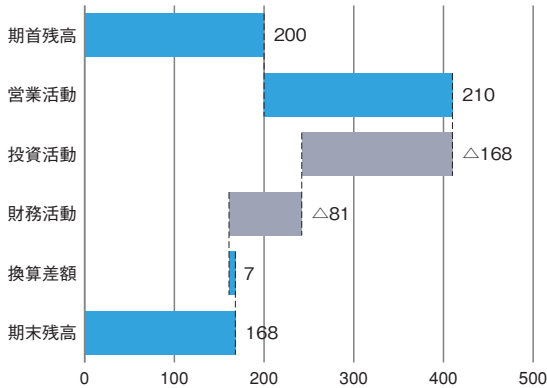
期末仕掛工事の減少による支払手形及び買掛金の減少により、前期末比155億1百万円減少し、1,939億30百万円となりました。

③ 純資産の増加

当期純利益による増加や、期末時価の回復による投資有価証券の評価益の増加により、前期末比135億32百万円増加し、過去最高の1,031億7百万円となりました。

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー(要約) (2010年3月期) (単位: 億円)



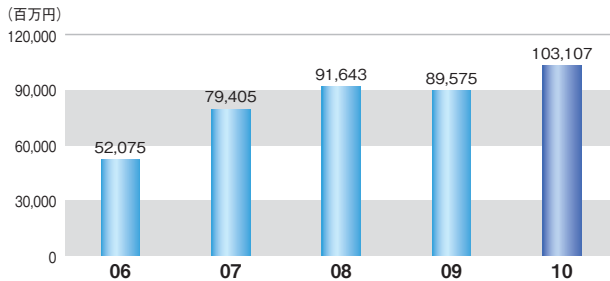
(注)金額については、一億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

連結株主資本等変動計算書(要約)

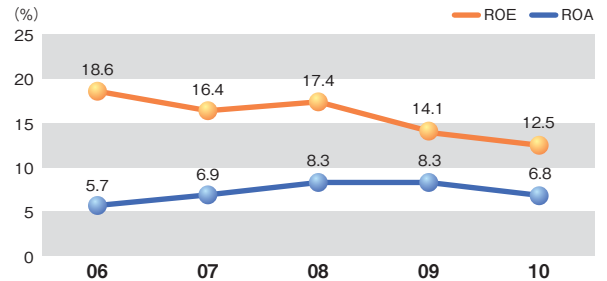
自 2009年4月 1日
至 2010年3月31日
(単位: 百万円)

	株主資本 合計	評価・換算 差額等合計	少数株主 持分	純資産 合計
2009年3月31日残高	94,629	△ 6,786	1,731	89,575
連結会計年度中の変動額				
剰余金の配当	△ 2,800			△ 2,800
当期純利益	11,788			11,788
自己株式の取得	△ 27			△ 27
自己株式の処分	1			1
土地再評価差額金の取崩	33			33
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)		4,311	225	4,536
連結会計年度中の変動額合計	8,995	4,311	225	13,532
2010年3月31日残高	103,624	△ 2,474	1,957	103,107

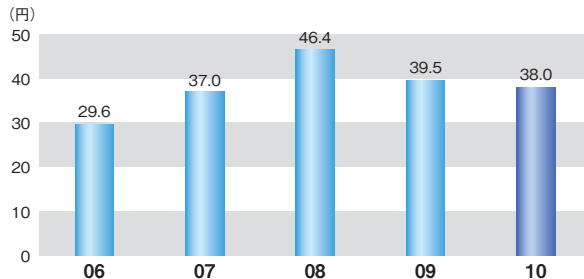
純資産



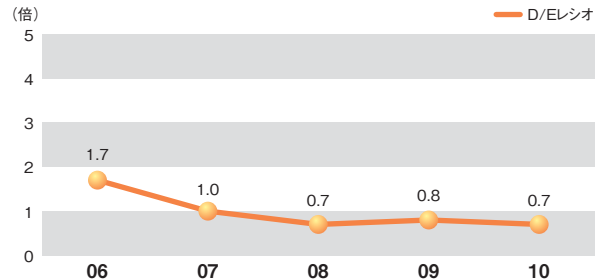
自己資本当期純利益率(ROE)/総資産経常利益率(ROA)



1株当たり当期純利益



D/Eレシオ



単体貸借対照表(要約)

当期：2010年3月31日
前期：2009年3月31日
(単位：百万円)

科目	当期	前期
●資産の部		
流動資産	99,984	113,562
現金及び預金	6,928	9,539
受取手形及び売掛金	79,260	74,311
その他	13,795	29,711
固定資産	153,732	143,497
有形固定資産	102,551	94,224
無形固定資産	4,642	4,097
投資その他の資産	46,538	45,175
資産合計	253,717	257,059
●負債の部		
流動負債	101,210	110,701
支払手形及び買掛金	44,818	50,094
短期借入金	37,881	36,956
その他	18,511	23,650
固定負債	80,418	82,971
長期借入金	32,573	31,854
退職給付引当金	37,118	39,112
その他	10,726	12,004
負債合計	181,628	193,672
●純資産の部		
株主資本	71,105	64,869
資本金	28,619	28,619
資本剰余金	11,943	11,943
利益剰余金	36,139	29,878
自己株式	△ 5,597	△ 5,572
評価・換算差額等	983	△ 1,482
純資産合計	72,088	63,387
負債純資産合計	253,717	257,059

単体損益計算書(要約)

当期：2009年4月1日～2010年3月31日
前期：2008年4月1日～2009年3月31日
(単位：百万円)

科目	当期	前期
売上高	316,856	337,222
売上原価	291,721	309,284
売上総利益	25,134	27,937
販売費及び一般管理費	9,194	10,293
営業利益	15,939	17,644
営業外収益	1,822	2,225
営業外費用	2,510	2,469
経常利益	15,251	17,400
特別利益	340	—
特別損失	—	2,099
税引前当期純利益	15,591	15,300
法人税等	4,205	6,209
法人税等調整額	2,357	470
当期純利益	9,028	8,620

1株当たり情報 (単体)

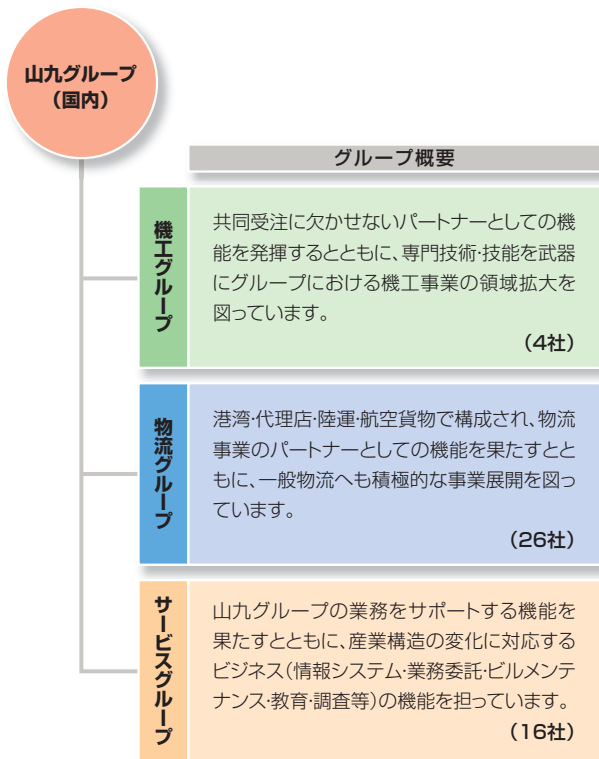
科目	当期	前期
当期純利益	29円01銭	27円21銭
配当金	9円	9円
純資産	231円70銭	203円69銭

(注)金額については、百万円未満の端数を切り捨てて表示しております。

コーポレートデータ

会社名	山九株式会社
住所	〒104-0054 東京都中央区勝どき六丁目5番23号 Tel.(03)3536-3939
資本金	28,619百万円
事業所	国内支店 40、海外駐在員事務所 4
関係会社	国内46、海外現地法人37
従業員数	9,711名
お問合せ先	総務・CSR部 Tel.(03)3536-3939

グループ概要



役員 (2010年6月29日現在)

代表取締役社長	中村 公一
代表取締役専務取締役(事業・エリア管掌兼エリア統括)	平栗 直樹
代表取締役専務取締役(総務・法務・広報・経営企画管掌兼安全・環境統括)	平山 喜三
代表取締役専務取締役(財務・人事・労政・技術・システム管掌)	村上 喜一
取締役兼常務執行役員(ビジネス・ソリューション事業本部長)	浅倉 寛二
取締役兼常務執行役員(プラント・エンジニアリング事業本部長)	北原 正樹
取締役兼常務執行役員(財務担当 CFO)	井野 学
取締役兼常務執行役員(経営企画担当)	西島 宏幸
取締役兼常務執行役員(技術・開発本部長 CTO)	中山 正章
取締役兼常務執行役員(ロジスティクス・ソリューション事業本部長)	藤富 孝
取締役兼執行役員(人事・労政担当)	細井 研二
常勤監査役	三宅 速
常勤監査役	猫橋 洋史
常勤監査役(社外監査役)	東 洋三
社外監査役(弁護士)	小川 憲久

IRホームページ <http://www.sankyu.co.jp/ir/>



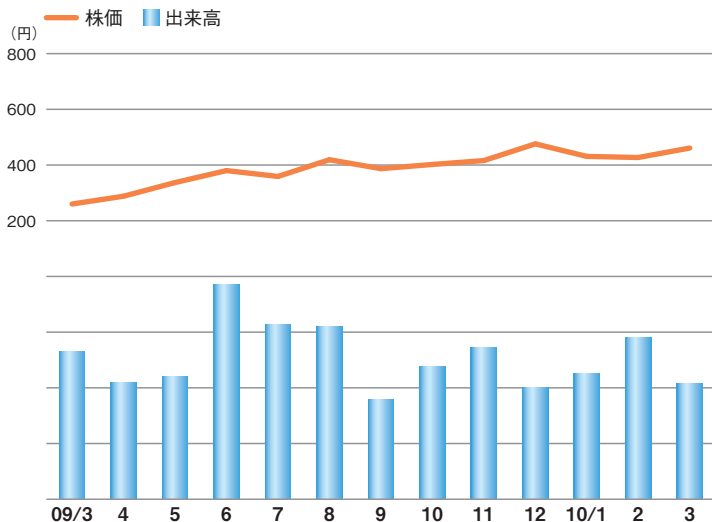
● IR関連のより詳しい情報については当社IRサイトをご覧ください。

株式データ (2010年3月31日現在)

会社が発行する株式総数	1,000,000,000株
発行済株式総数	326,078,030株
株主数	19,682名

大株主	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	29,697	9.10
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	25,785	7.90
新日本製鐵株式会社	14,400	4.41
財団法人ニビキ育英会	9,800	3.00
株式会社みずほコーポレート銀行	8,310	2.54
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	6,487	1.98
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4)	6,125	1.87
明治安田生命保険相互会社	6,000	1.84
ザチエースマンハッタンバンクエヌイロンドンエスエルオムニバスアカウト	5,778	1.77
東京海上日動火災保険株式会社	5,251	1.61
合計	117,633	36.07

株価・出来高の推移



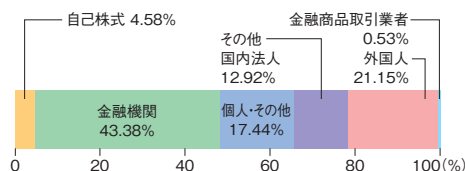
株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日まで
期末配当金	3月31日
受領株主確定日	毎年6月
定時株主総会	三菱UFJ信託銀行株式会社
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-7111(通話料無料)
同連絡先	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sankyu.co.jp/koukoku/ (ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

所有株式数別構成比率



1株当たり配当金 / 配当性向

